

## 新型コロナウイルス感染症 Q&A ②

(浜松医科大学 堀井俊伸教授に聞きました。)

2020年5月15日現在

政府は、ゴールデンウィーク最終日の5月6日までとされていた全国の緊急事態宣言を5月末日にまで延長しました。この施策の効果でしょうか、感染者の新たな発生が徐々に減少するとともに、退院となった人の数が増え、多くの県で医療に余裕が生まれてきました。その後、「新しい生活様式」と称する呼びかけを公表し、5月14日には、8都道府県（東京、北海道、大阪、京都、神奈川、埼玉、千葉、兵庫）を除くすべての県で緊急事態宣言を解除しました。感染者数が再び増加する懸念が払拭されないなか、学校の再開に向けて準備を進める自治体が増えてきました。

### <Q1 学校再開にあたって>

教員に教室などを消毒してもらう際のポイントを教えてください。アルコール類と塩素系の消毒薬がありますが、それぞれの長短所、使用時の注意事項や使い分けなどを教えてください。

**A:** 教室内の消毒は、人の手が触れた可能性のあるすべての場所を漏れなく清拭することが大切です。一方で、床や黒板（ホワイトボード）といった人の手がほとんど触れない場所を消毒する必要はありません。消毒薬は、アルコール類でも塩素系でもコロナウイルスに対して十分な効果を発揮します。アルコール類はエタノール濃度が70～83 vol%の範囲でなければ効果が乏しいこと、塩素系消毒薬は製剤ごとに有効とされる濃度が異なることに留意し、有効な濃度で使用しましょう。塩素系消毒薬の場合、希釈して使用するときはその日のうちに使い切ることが大切です。希釈した瞬間から時間とともに失活していくからです。なお、次亜塩素酸ナトリウム液などは、広範囲に使用すると臭いが気になることや、金属に使用すると腐食させてしまうというデメリットがあります。このようなときはアルコール類を選ぶとよいでしょう。

学校内に感染者がいない場合でも、子供たちが使った後のボールや図書室の本の消毒は必要ですか？

**A:** 子どもたち全員に「不特定多数の人が触れるものに触わる前と後で、手指消毒を行うこと」が習慣づけられていないのであれば、使用後のスポーツ用具を消毒する必要があります。一方で、図書室の本は、一定時間内に触れる人が限定的であることから、本を返却したらすぐに手指を消毒することを確実に指導できれば、本を消毒する必要はありません。

不特定多数の人が触れるものに触わる前と後に手指消毒を実践することは、学校生活にとどまらず社会生活においても有意義な感染予防法です。この機会に習慣づけておくことは、インフルエンザやノロウイルス感染症を含む種々の感染症の予防にもつながります。

給食の配膳や掃除の仕方です。特に注意することはありますか？

**A :** 政府は、新しい生活様式の1つで「食事中は対面で着席せず、おしゃべりを控えましょう」と呼びかけています。給食は、感染予防の配慮が十分になされていなければ、学校生活のなかでリスクが最も高い場面になり得るでしょう。配膳についても、お弁当を配るだけの（食品を直に扱わない）作業であれば、子どもたちが密にならないようにする配慮があれば足りるのですが、個包装されていない食品を扱うことはリスクの高い作業となるため、新しい給食様式の検討が必要になるのかもしれない。

掃除は、子どもたちが密になる状況をつくらないように計画されていることが大切です。子どもたちはマスクを装着して掃除し、終わったらすぐに手を洗うようにします。

### <Q2 保健室における感染症予防>

体調不良や発熱者が出た場合、通常に対応以外にどんなことに気を付けたらよいですか？ また、子どもを寝かせたベッドやその周りの消毒はどのようにしたらよいか教えてください。保健室において、自分自身を守るためにはどんなことに気を付けたらよいですか？

**A :** 飛沫感染と接触感染を予防する対応が必要となります。保健室内では、感染症を疑う子どもがいる間は、その子どもを含む全員がマスクを装着します。職員は、子どもに触れる前と後で手指衛生をこまめに行うことが大切です。もちろん、感染症を疑う子どものケアや処置のときに手袋を装着することも良いでしょう。ただし、手袋はケアや処置のたびに交換しなければ、手指衛生が不十分となり、かえって感染リスクを高めてしまうことになります（手袋を装着することよりも、こまめな手指衛生を重視します）。このような感染予防をきめ細かく行うことにより、職員ご自身を守ることが可能となります。また、子どもが退室した後は、子どもの手が触れた可能性のあるところ（ベッド柵、体温計、ドアノブなど、清拭が可能なおとこ）を消毒薬で漏れなく清拭しますが、シーツなどのリネン類は通常に対応で問題ないと考えます。

